



# 令和7年度 すくわくプログラム 報告書

## 【テーマを設定する】

『 育てる 』

## 活動①

「こんなにポロポロで何が育てられるの？」  
という『問い』をもとに、

## 【環境をデザインする】

●準備した物  
菜園ボックス、図鑑、会議を行なう環境

## 【活動スケジュール】

●人数・時間・場所  
4人・正午・園庭菜園ボックス工事現場や保育室

## 【振り返りをふまえた気づき】

### ●職員カンファレンス

現状を確認するところから活動がスタートした。

菜園ボックスが完成していく過程においても、子どもたちは受け身ではなく主体的に関わる姿が見られた。工事に携わる方のもとへ自ら足を運び、疑問に思ったことを積極的に質問したり、図鑑を使って育てたい野菜を調べたりするなど、自発的に情報を集めようとする姿が印象的であった。

また、話し合いの場では一人ひとりが自分の考えを言葉にして発信し、友だちの意見にも耳を傾けながら対話を重ね、自分たちの力で栽培する野菜を決定することができた。

本活動は子どもたちの発案から始まった取り組みであり、「自分たちの畑」という当事者意識をもって継続的に関わる姿が見られた。考える力、協働する力、そして思いを行動に移す力など、多面的な成長を感じる機会をとった。

## 【探究活動を実践する】

### ●活動内容

老朽化により角部分が崩れ、破損が進んでいた菜園ボックス。「ここじゃ何も育たないよ」「でもお野菜育てたい」「直してもらおう」と声が上がリ植栽工事の方に現場の進行状況を確認したり、何が育てられるか相談したりとコミュニケーションを取りながら完成を待った。その後はアドバイスをもとにクラスで何を育てるか会議をして決定し栽培活動を開始した。

### ●子どもたちの様子

朽ち果てた菜園ボックスを見て悲しむ子どもたち。直してもらえることになり、工事が始まると完成を楽しみに何度も工事現場に足を運んだ。「メロンやすいかは何個植えられますか？」と質問をしたり、図鑑で栽培環境を調べたりしながら何を育てるか会議を重ねた。完成した菜園ボックスに喜び、栽培を楽しみにしている様子。



